

木更津高専平成26年度計画及び実績

	平成26年度年度計画	平成26年度計画実績
<p>【1. 教育に関する事項】 (1) 入学者の確保</p>	<p>【適切な入試実施への取組計画】 ① 近隣高等学校の入学選抜制度の調査を引き続き行ない、本校推薦入試の現状を継続的に調査・分析する。 ② 推薦選抜において、数学を中心とした追跡調査を行い、適性検査(数学)の在り方について検討する。 【志願者の質の維持及び志願者確保のための取組計画、入試広報の実施計画】 ① 「キャンパスガイドブック」の更なる充実や中学校訪問や各種学校説明会を通して積極的に広報を行う。 ② 中学校訪問では卒業生のキュアリアパスを紹介するなど志願者増加を推進できる方策を検討する。引き続き、首都圏進学フェアなどの各種学校説明会に参加する。また、体験入学では、中学校の状況に合わせて実施する。 ③ WebページのCMS(Content Management System)化を視野に入れ、出前授業・公開講座及びオープンキャンパス、一日体験入学、学校説明会等各種イベントの情報並びに「キャンパスガイドブック」等の印刷物について、中学生やその保護者に対し、より速やかな情報発信を推進する。 【女子中学生志願者の確保への取組計画】 ① オープンキャンパスや文化祭などでは、女子の志願者を意識し、在学女子学生の協力を積極的に求める。</p>	<p>【入試制度の見直しの検討】 ① 近隣高等学校の入学選抜制度の調査を行ったが、今年度大きな変更は無かった。今後も継続的に調査・分析する。 ② H26年度入試における推薦選抜のデータと入学後の数学の成績との相関を取った。その結果学区にやや偏りがあることが分かった。 【志願者確保のための取り組み、入試広報の実施計画】 ① 「進学志望の手引き」は、昨年に引き続きCampus Guide Book 木更津高専2015とし、2014年度版との違いがわかるように表紙を緑色から桃色に変更した。中学生に本校の教育内容や学校の特色、キャリアパスを理解してもらえるように写真等を多く活用したほか、卒業生だけでなく、5年生を含む在校生のコメントを多くして構成しており、中学生・保護者・中学校教員・学習塾講師等を中心に配布した。また、広報委員会と連携し、オープンキャンパスや体験入学などの学校行事のPRを積極的に行った。 ② 中学校訪問は、6月から10月にかけて144校の中学校を訪問し、各科ごとのキャリアパスの説明も盛り込んだ面談を行った。今後、全校に満足・理解してもらえるように、説明資料の充実を図っていく。各種説明会は、6月から10月にかけて19会場延べ20回の学校説明会を行った。その内訳は、千葉市、成田市、柏市、市原市、君津市、木更津市の各会場で実施し、本校では7月と10月に説明会を行った。7月と8月に4会場延べ5日間、首都圏進学フェアにブースを開設し学校説明を行った。その他、9会場及び3中学校にて進学説明会を実施した。千葉市で行った説明会には、サイエンススクエア & 学校説明会と題して、サイエンススクエア会場では、①模様が動いて見えるよ！「不思議なモアレディスク」 ②「LEDでイルミネーション」を作ろうの2つのコンテンツを用意し、適宜学校説明会も行い、中学生・保護者15組の参加者があった。各種説明会の参加者総数は296組961名であった。 また、平成26年度新規事業として、12月に千葉市及び本校で入試説明会を実施し、148組295名の参加があった。オープンキャンパス・一日体験入学は、7月と10月の2回オープンキャンパスを実施した。自由に各学科の研究室や校内各施設を見学できるプログラムとした。それぞれの参加者数は、160組320名、130組260名であった。今年度もオープンキャンパスでは「先輩女子高専生に聞いてみよう」を企画しOGを招聘した。講演には女子中学生が多数参加した。また、7月、8月にかけて各科の一日体験入学を計9回行い、参加者総数は565人であった。 ③ 出前授業・公開講座及び本校志望者向けのオープンキャンパス、一日体験入学、学校説明会等に関する情報については、本校Webのトップページにある「ニュース&トピックス」や「イベントカレンダー」に掲載するとともに、昨年度に引き続き各種イベントの学生取材記事を「学生目」として掲載し、学生生活の様子を中学生や保護者へ情報発信した。また、「キャンパスガイドブック」等の印刷物についても速やかにWebページへ掲載した。各種イベントの情報やその取材記事等については、その情報をより早く入手できるよう心がけ、昨年度と同様にスピーディに情報発信が出来た。 【女子中学生志願者の確保への取組計画】 ① 女子学生増の取り組みとして、オープンキャンパスで本校OBのキャリアパスを紹介する女子学生用パンフレット(高専女子百科 Jr)を作成し、講演会を開催した。</p>

<p>(2)教育課程の編成</p>	<p>【中長期(5～10年程度)の高専の将来構想、教育課程の改善の検討及び必要な措置】</p> <p>①モデルコアカリキュラムを念頭に置き、更に地域性や入学志願者数の変動を考慮した学科再編やカリキュラム改訂について検討する。</p> <p>【英語力向上に関する取組計画】</p> <p>①「実用英検」「工学英検」「TOEIC」を継続して活用することにより、学生の総合的な英語力のレベルアップを図る。</p> <p>【学習到達度試験の活用計画】</p> <p>①「数学」、「物理学」の学習到達度試験に対して、学生の取り組みがより積極的になるよう引き続き対応する。また、試験結果の分析を試みる。</p> <p>【専攻科の充実を図る計画】</p> <p>①授業アンケートなどを利用し、教育課程の整備と2016年のJABEE受審も考慮した教育課程の検討を行う。</p> <p>【社会奉仕体験活動や自然体験活動等の参加・取組計画】</p> <p>①各行事(合宿研修やスキー合宿、見学旅行、各種外部研修、駅伝大会、学園祭等)の運営を見直し、各行事の意義や効果が発揮されるよう改革する。</p> <p>②ボランティア活動、社会奉仕活動や自然体験活動を学生に推奨し、学友会等に積極的に働きかけ、自主的活動をより推進する方策を検討する。</p>	<p>【中長期(5～10年程度)の高専の将来構想、教育課程の改善の検討及び必要な措置】</p> <p>①教務委員会において、カリキュラム改訂の検討を継続しており、H26年度に基本方針を提案した。H27年度にはより実現的な検討に入る予定である。H26年度に提案した基本方針としては、特徴有るカリキュラムの導入として、上級学年による低学年へのピアサポートの単位化と副プログラムによるグローバル教育を掲げ、また、状況に合わせた変更として、Webシラバスシステムを利用したルーブリックへの対応と学修単位の増加を掲げた。アクティブラーニングを取り入れて、自学自習を促すことを検討した。</p> <p>【英語力向上に関する取組計画】</p> <p>①「実用英検」「工業英検」「TOEIC」をそれぞれ春、秋、冬の3回、本校にて実施した。</p> <p>「実用英検」第1回受験者：53名、第2回受験者：221名、第3回受験者：135名</p> <p>「工業英検」第1回受験者：116名、第2回受験者：125名、第3回受験者：43名</p> <p>※成績優秀者が文部科学大臣賞を受賞した。(情報工学科3年、電子制御工学科2年)</p> <p>「TOEIC」第1回受験者：32名、第2回受験者：17名</p> <p>【学習到達度試験の活用計画】</p> <p>①「数学」では平成25年度の学習到達度試験の成績を分析した結果、前年度までと変わらず、基本問題の平均点は全国平均程度で、応用問題の平均点は全国平均よりわずかに低い程度であった。この原因が究明できず、これまで通り、授業中での課題に基本問題だけでなく、応用問題や複合問題を取り入れながら対応した。「物理学」では昨年度に引き続き、応用物理(第3学年後期)における評価の一部に学習到達度試験の結果を加えることで学生の取組が積極的になるようにした。また、平成25年度の分析結果をもとに、誤答の多い項目については、教授方法に工夫を行うよう改善をした。さらに、物理の出題内容、評価方法等について数学担当者と意見交換を行った。</p> <p>【専攻科の充実を図る計画】</p> <p>①2016年のJABEE受審にそなえ「生産システム工学」教育プログラムの手引書を、新しく追加された審査項目「チームで仕事をするための能力」に対応するよう、(1)学習・教育到達目標および(2)目標を達成するために必要な科目の設定を改訂して、作成した。</p> <p>【社会奉仕体験活動や自然体験活動等の取組計画】</p> <p>①合宿研修、体育祭、球技大会、見学旅行、学園祭等を実施し、行事毎の反省点をまとめ次年度へ引き継いだ。なお、今年度は駅伝大会の充実を図り、校外で実施する計画を立てた。学寮行事(新入生歓迎会、群対抗スポーツ大会、火災対応避難訓練、秋季リーダー研修会、地震対応避難訓練、寮祭、春季リーダー研修会)を実施し行事の意義や問題点を寮務委員会で検討した。</p> <p>②学友会活動において、今年度から「ボランティア情報局同好会」が組織され、各種ボランティアへ積極的に参加するとともに会員外の学生に情報を発信した。また、「クリーンデー」として夏季休業前に学生が学校周辺を中心として校外清掃を実施した。各クラスホームルーム活動において年間を通して校外清掃を行った。学寮では、さつまいもの苗を植え、立派なイモの収穫を通じて自然に感謝する体験をした。</p>
-------------------	---	--

<p>(3)優れた教員の確保</p>	<p>【近隣大学等が実施するFDセミナー、地元教育委員会等が実施する高等学校の教員を対象とする研修、企業や技術士会等を利用した教員を対象とするの能力向上に資する研修への参加・実施計画】</p> <p>①外部機関の開催する教員研修会に教員の派遣を促進する。</p> <p>【優れた教員の確保や教員のキャリアパス形成のための取組計画】</p> <p>①公募制による教員の採用を継続するとともに、教授・准教授における多様な背景を持つ教員の割合60%以上を継続して保持する。また、教員の選考時に模擬授業を実施する。</p> <p>②原則1名以上の長期もしくは短期研修員を選出し、国内外の大学等で研究・研修を受けられるよう配慮する。</p> <p>【女性教員採用・登用についての具体的な取組計画(施設整備を含む)】</p> <p>①男女共同参画の一環として施設面の充実を含め、女性教員の応募の促進を検討する。</p> <p>【教員FDの取組計画】</p> <p>①夏期の「厚生補導研究会」を継続する。</p> <p>②キャリアパス形成のため、機構のFD研修制度に教員を推薦する。</p> <p>【他機関との教員交流】</p> <p>①長岡技大との「戦略的技術者育成アドバンスコース」等の連携授業を実施し、人事交流を図る。</p>	<p>【近隣大学等が実施するFDセミナー、地元教育委員会等が実施する高等学校の教員を対象とする研修、企業や技術士会等を利用した教員を対象とするの能力向上に資する研修への参加・実施計画】</p> <p>①外部機関が開催する研修会に教員を参加させた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育評価研修 ・大学生活にかかるリスクの把握と対応に関するセミナー ・国立高専機構教職員向けトレーニング「組込みシステム開発」 ・CBT問題作成研修 ・心の問題と成長支援ワークショップ メンタルヘルス向上とカウンセリング ・全国学生相談研修会 <p>【優れた教員の確保や教員のキャリアパス形成のための取組計画】</p> <p>①平成27年度の採用に当たっては、公募により行い、企業経験等のある者1名を採用候補者とした。(平成26年4月1日現在の多様な勤務経験者の割合:教授・准教授の割合60%)また、教員選考時にホワイトボードを使用して、模擬授業を実施し、授業への的確性などを判断した。</p> <p>②教員の研究能力の向上を図るため、平成27年度国立高専在外研究員区分AIに機械工学科教員を推薦し、マサチューセッツ工科大学への派遣(1年)が決定した。また、内地研究員として、人文学系教員を推薦(東京大学に派遣)した。</p> <p>【女性教員採用についての具体的な取組計画(施設整備を含む)】</p> <p>①平成27年4月1日採用の教員公募に当たり男女共同参画の趣旨に基づき、公募要項に「本校は、男女共同参画を推進しており、業績(教育業績、研究業績、社会的貢献、人物を含む)の評価において同等と認められる場合には、女性を優先的に採用します。」と明記し、女性の応募者を募った。(情報の情勢応募者は0人、基礎の女性応募者は3名/21名中)また、平成26年4月1日の人事異動において、女性教員を教授(1名)及び准教授(1名)に登用するとともに、事務職員においても女性職員を係長(1名)に登用した。</p> <p>【他機関との教員交流】</p> <p>①長岡技科大アドバンスコースの連携授業を実施した。具体的には、11月29日(土)から1月17日(土)の各土曜4回の集中講義で15回の講座を実施した。また、アドバンスコースの関連でGI-netを含めた会議に4回参加した。</p>
--------------------	---	---

<p>(4)教育の質の向上・改善</p>	<p>【モデルコアカリキュラム(試案)への取組計画】</p> <p>①「Webキャリアシステム」の積極的な利用を促し、アンケート及びキャリアカルテの入力が着実に実施されるよう工夫する。更にアンケート等の結果を参考にして、実験実習などの授業内容の検討、教育手法の改善、教材開発に努める。</p> <p>【ICT活用教材や教育方法の開発、利活用】</p> <p>①インターネットなどを活用したICT教育の取組みを充実させる。</p> <p>【エンジニアリングデザイン教育に関する取組計画】</p> <p>①「授業方法改善研究会」として、授業方法の実態の把握、工夫の抽出等、授業方法の改善方法について継続して検討する。</p> <p>【自己点検評価への取組計画】</p> <p>①平成25年度に受審した機関別認証評価の最終結果において、「改善を要する点」として指摘された事項について再検討を行い、改善に向けた具体的手法について検討する。</p> <p>【JABEE認定、機関別認証評価への取組計画】</p> <p>①平成28年度のJABEE継続審査に向け、JABEE推進専門委員会を再編して主査を置き、新基準に対する具体的対応など受審に向けた準備を行う。</p> <p>【インターンシップの実施計画】</p> <p>①専攻科課程・準学士課程におけるインターンシップを技術振興交流会参加企業や千葉県内企業・大学・公官庁及び海外において引き続き実施する。</p> <p>【企業人材を活用した教育の取組状況】</p> <p>①技術振興交流会企業を中心とした地域企業及びOB教員と連携したPBL授業等の実践的教育を更に充実させる。</p> <p>【共同教育の実施計画】</p> <p>①技術振興交流会参加企業を中心とした、県内企業との共同教育を進める。</p> <p>【ICT活用教育に必要な構内情報基盤の整備計画】</p> <p>①「学術認証フェデレーション(学認:Gakunin)」に学生が参加できるシステムを構築し、インターネット上の教材活用等の基盤を整備する。</p>	<p>【モデルコアカリキュラム(試案)への取組計画】</p> <p>①「Webキャリアシステム」のアンケートが着実に実施されるように、試験時間割にアンケート実施時間を組み込み、同時にキャリアカルテの入力が進むようにアナウンスを行った。授業アンケートは、一部不具合を除きほとんどの科目で実施された。更にアンケート等の結果を参考にして、授業内容の検討を行った。</p> <p>【ICT活用教材や教育方法の開発、利活用】</p> <p>①英語eラーニング教材(ALC NetAcademy2)を一部の授業に取り入れるなどして、英語コミュニケーション基礎能力の向上を図った。その結果、多くの学生がTOEICや実用英検等で基準を達成した。</p> <p>【エンジニアリングデザイン教育に関する取組計画】</p> <p>①「授業方法改善研究会」では、学科と教科の懇談会を実施している。</p> <p>【自己点検評価への取組計画】</p> <p>①4月から5月にかけて、認証評価で指摘を受けた各観点について他高専の実践事例および対応状況等を調査した。その結果を踏まえ、6月に本校における改善計画を立て、運営協議会に報告した。その後の改善実施計画については以下のとおりとした。</p> <p>基準6 達成状況の把握手法に関する指摘については、「Webシラバス作成時に必要とされるルーブリックの作成と利用により教育評価を実施していく予定とした。」</p> <p>基準9 教育の質向上に関する指摘について、「紀要を使ったFD活動の見える化等を通して、本校のFD活動を活性化する予定とした。」</p> <p>基準11 各計画に対する実績等の総括については、「年度実績表の評価において「B」評価となった項目について、平成27年度計画について改善が行われるよう、担当副校長に依頼した。」</p> <p>【JABEE認定、機関別認証評価への取組計画】</p> <p>①7月にJABEE推進専門委員会の座長を新たに選出した。7月19日に公益社団法人日本工学教育協会主催の「工学(融合複合・新領域)関連分野の審査講習会」に座長(1名)を派遣して情報収集を行った。また11月に各学科学系より新たにJABEE推進専門委員を選出し、スタートアップ会議を開催し、新基準に対応した学習・教育達成目標の策定等の準備を開始した。</p> <p>また、平成27年1月に外部評価委員会を開催し、外部有識者から教育に関すること、研究に関すること、国際交流に関すること、地域連携に関すること、その他管理運営に関することへの評価と提言等をいただき、3月には外部評価報告書にまとめ、今後の学校運営に生かした。</p> <p>【インターンシップの実施計画】</p> <p>①各学科4年・5年生のインターンシップ実績については、機械39名、電気電子33名、電子制御38名、情報39名、環境都市39名であり、専攻科のインターンシップ実績については、機械・電子システム1名、環境建設1名であった。また、高専機構の海外インターンシップ学生募集に、5年生で専攻科進学者対象の学生に案内を行った。</p> <p>【企業人材を活用した教育の取組状況】</p> <p>①技術振興交流会会員企業を中心とした地域企業4社から5課題をいただき、専攻科1年「問題解決技法」の中で学生が解決方法を研究し、発表した。企業との連携および学生へのアドバイザーとしてOB教員に協力いただいた。</p> <p>【共同教育の実施計画】</p> <p>①国立高専機構による企業技術者等活用プログラムを活用し、専攻科生対象の「専攻科PBL科目における共同教育の展開」として県内企業との共同教育を行った。OB教員による教育コーディネータを配置して企業のニーズを取り入れ、学生がPBL教育の一環として企業側担当者と交流し、解決策を提案した。</p> <p>【ICT活用教育に必要な構内情報基盤の整備計画】</p> <p>①eラーニング高等教育連携(eHELP)と連携して、参加大学および高専が提供するインターネット遠隔講義を利用した外部単位取得を奨励した。</p>
----------------------	---	---

<p>(5) 学生支援・生活支援</p>	<p>【メンタルヘルスについての取組計画】 ①学外において開催されるメンタルヘルス研究会及び学生相談室等の研修会へ参加する。また、学内においてメンタルヘルス研修会を実施する。 【就学支援・生活支援の取組計画】 ①新入生オリエンテーションとして学生相談室ガイダンスを実施する。また、カウンセラーによるHR単位の講義の実施を検討する。 ②担任や学年会と学生委員会との情報交換を密にして、学生指導に関する情報の共有化を図り、学生指導にフィードバックする。 ③各種奨学金制度について、各機関からの資料の収集を行い、その情報を提供して、学生の利用拡大に努める。また、必要に応じて日本学生支援機構などが開催するイベントや研修会などに必要な人材を派遣し、学生の支援体制を一層充実させる。 【キャリア形成支援についての取組計画(女子学生に対する取組を含む)】 ①低学年における進路指導を充実させる。 ②企業情報や就職情報については、就職担当である5年担任と専攻科が連携しながら採用担当者とコンタクトをとり、適確な情報を共有することで就職に対する適切な学生支援を行う。4年生から企業や大学を知る機会を多く設け、学生の進路に対する意識向上を図る。 ③進学情報については、大学進学予定者及び大学院進学予定者に対する大学の学校説明会を学内で開催する。 【高い就職率を確保するための取組計画】 ①4年担任と専攻科が連携して、就職希望者に対する就職情報会社のセミナーを学内で開催し、また、学外における就職情報会社のセミナーに参加させるなど、企業選択の意識の向上を図る。併せて、就職情報会社の求人システムの活用を図る。 【寄宿舎等の学生支援施設の整備計画】 ①女子寮の増築整備が実施されたため、既存部分で狭隘となった施設(共同利用の食堂)の改修整備に向けた検討を行い、併せて男子寮の大規模改修に向けた検討を行う。</p>	<p>【メンタルヘルスについての取組計画】 ①学外において開催されるメンタルヘルス研究会及び学生相談室等の研修会へ参加した。緊急支援に関する研修会(7月1名)、障害学生支援研修会(8月1名)、障害学生支援ワークショップ(8月1名)、心の問題と成長支援ワークショップ(10月1名)、全国高専メンタルヘルス研究集会(11月3名)、全国学生相談研修会(11月1名) 学内において保護者対象メンタルヘルス講演会(11月)と教職員対象のメンタルヘルス研修会(2月)を実施した。 【就学支援・生活支援の取組計画】 ①新入生オリエンテーションとして学生相談室ガイダンス及び1年生全員に対してカウンセラーとの面接を行った。また、3年生を対象としたカウンセラーによるHR単位及び合同HRでカウンセラーによる講義を実施した。 ②担任及び学年会と学生委員会で情報を密にし、その情報をもとに学生委員会で年間6回の「学生委員会だより」の発行を行った。具体的指導の内容として特に力を入れたのが、通学時における自転車の交通安全指導、SNSによる情報倫理に関する教育であった。これらは今後とも重要な教育内容として位置づけていく。 ③各種奨学金の募集情報は随時、担任へ周知するとともに、学生には学内の電子掲示板で掲示し、周知の徹底を図った。また、日本学生支援機構が開催した担当者研修会に参加した。 【キャリア形成支援についての取組計画(女子学生に対する取組を含む)】 ①7月と10月のオープンキャンパスにおいて女子中学生対象イベント「先輩女子高専生に聞いてみよう!」を開催し、講師として本校女子学生に低学年から積極的に参加してもらい進路について意識向上を図った。 ②就職担当である5年担任と専攻科長が連携して採用担当者とコンタクトをとり、求人に関する情報を共有している。また、4年生対象に各学科で就職及び大学へ進学した卒業生を招いて懇談会を開催した。 ③進学希望者には大学の学校説明会を12月に学内で開催した。 【高い就職率を確保するための取組計画】 ①就職希望者を就職情報会社が開催する学外でのセミナーに参加させるとともに学内で就職情報会社によるセミナーを開催し、意識の向上を図った。 【寄宿舎の整備計画(女子寄宿舎などの女子学生のための整備等を含む)】 ①学寮の大規模改修に向けた試案を作成した。試案では、国際交流の増加と遠方の学生増を見込んだ増設案が提案され、寮務委員会で議論が行われた。</p>
<p>(6) 教育環境の整備・活用</p>	<p>【施設マネジメントの取組状況】 ①施設マネジメントの充実を図り、産業構造の変化や技術の進展に対応できる実験・実習設備の更新、構内の環境保全ユニバーサルデザインの導入を推進する。 【施設整備計画(耐震化、老朽化対策、キャンパスマスタープラン、バリアフリー計画の見直し等)】 ①施設の老朽化、狭隘化、小規模施設の耐震性等を調査・分析し、な整備計画策定に向けて検討する。 【環境配慮への取組計画】 ①環境に配慮した施設の整備など安全で快適な教育環境の整備を計画的に推進する。</p>	<p>【施設マネジメントの取組状況(コスト削減の取組を含む)】 ①近年利用者が増えている保健室を講義棟Aに移転し、部屋の狭隘解消を行うと伴に、学生相談室の充実を図り学生の教育環境の改善を行った。講義棟Bで耐震上問題があった煙突を撤去して、安全な教育環境の整備を行った。 【施設整備計画(耐震化、老朽化対策、キャンパスマスタープラン、バリアフリー計画の見直し等)】 ①不動産検査において建物老朽化調査を行うと伴に、施設利用状況調査を行い施設マネジメントの充実を図った。 【環境配慮への取組計画】 ①省エネ対策として節電をメインに冷暖房温度設定や自動ドア・エレベーターの使用禁止を行い、省エネに努めた。</p>

<p>【2. 研究に関する事項】</p>	<p>【外部資金獲得への取組計画】 ①外部資金獲得への取組として、科学研究費補助金等の外部資金獲得に向けたガイダンスを実施する。 【産学連携についての取組計画】 ①産学連携の取組として、地域共同テクノセンターを中心とした共同研究、受託研究、受託試験、公開講座、技術相談を推進する。 ②教員の研究シーズ集を更新し、Webページなどで広報を行う。 【知財管理についての取組計画】 ①スーパー地域連携産学本部の有効活用を図り、知財資産化を推進する。 【地域技術者育成への貢献(社会人の学び直し等)】 ①地域技術者育成への貢献を目指して地域共同テクノセンターを中心とした地域連携活動の強化を図る。 【小中学校と連携した理科教育支援への取組計画】 ①小中学校向けの理科教育支援としての出前授業等を推進する。 【地域共同テクノセンター等の活用計画】 ①実験設備・試験装置紹介コンテンツを製作し、Webページなどで広報を行う。</p>	<p>【外部資金獲得への取組計画】 ①科研費獲得に向け、本校校長を講師として『-申請書のノウハウとチーム力の活用-』と題して、採択となった申請書を具体例として、申請書作成時のノウハウとチームによる申請の有効性について講演を行った。参加者数は教職員含め63名であった。平成26年度申請(平成27年度分)58件となり、前年度申請の42件を大きく上回った。 【産学連携についての取組計画】 ①地域共同テクノセンターを中心とした産学連携の取組結果として、受託研究3件、共同研究11件、技術相談20件を受け入れてきた。公開講座については、全学科学系に実施を呼び掛け、計14件実施することができ、延べ289名の受講生の参加があった。 平成26年10月に開催した第21回テクノフォーラムにおいては、カレッジ講演会と同時開催を行い、外部有識者2名に講演をいただいた。また、平成27年2月開催した第22回テクノフォーラムにおいては、外部有識者からの講演と大型機器の導入された研究室の見学を行った。また、平成26年9月開催の「千葉エリア産学官オープンフォーラム」及び10月開催の「おおた研究フェア」には研究発表とポスター展示をし、研究紹介を行った。 ②教員の研究シーズ集を更新・増強し、Webページに掲載した。 【知財管理の取組計画】 ①関東信越地区担当の産学連携コーディネータ外部資金獲得や知的財産の資産化などについて説明を受けた。 【地域技術者育成への貢献(社会人の学び直し等)】 ①木更津高専技術振興交流会の活動実績 a)木更津高専テクノフォーラムの実施 ・第21回テクノフォーラム(平成26年10月7日実施) ・第22回テクノフォーラム(平成27年2月3日実施) b)レベルアップ講座の実施(3コンテンツ実施) c)木更津高専キッズサイエンスフェスティバル(平成26年7月24日実施) ・地域共同テクノセンターを中心とした地域連携活動の強化実績 a)企業技術者等活用プログラムにおける企業への取材活動(参加企業39社) ・企業技術者等活用プログラム経費を活用した専攻科1年「問題解決技法」におけるCOOP教育の実施(参加企業4社) a)OB教員による企業訪問(訪問企業数39社(3月末現在)) 【小中学校と連携した理科教育支援への取組計画】 ①市内の小中学校教員30名に理科授業の能力向上を図る研修会を実施した。東清小に学生12名を派遣し小学生の教育に協力した。小中学校向けの出前授業を8回実施し、延べ264名の受講生に対し、科学の面白さやモノづくりの楽しさを体験させた。出前授業の実績については、テクノセンターニュースに掲載するとともに、全20コンテンツ一覧をテクノセンターHPで閲覧できるようにした。 【地域共同テクノセンター等の活用計画】 ①補正予算で新しい設備が多く導入されたことに対応し、研究設備を紹介する「主要研究設備集」を大幅に増補・更新した。</p>
-----------------------------	--	---

<p>【3. 社会との連携、国際交流等に関する事項】</p>	<p>【国際交流協定の締結】 ①海外教育機関との新規協定締結等について検討する。</p> <p>【学生の海外派遣計画】 ①台湾国立聯合大学との学生交流・学術交流を推進し、教員交流を検討する。ゲーテンスティテュートの主催するドイツ語研修に学生の参加を促す。シンガポールへの短期研修派遣を計画し、参加学生の募集を行う。</p> <p>【留学生の受入体制の強化計画(留学生用の居室整備またはこれに類するものを含む)】 ①短期留学生を受け入れるための問題を抽出し、検討する。</p> <p>【外国人留学生に対する研修計画】 ①近隣高専との連携を図り、留学生に対する合同研修旅行を実施する。また、国際交流センターが開催する各種研修会等に積極的に参加・協力する。</p>	<p>【国際交流協定の締結】 ①マレーシア王立スルタン・アラム・シャー校との交流が進展した。具体的には、以下の通りである。 ・4月4日～4月11日、次世代科学者キャンプ、学生5名教員1名派遣 ・9月17日、代表団(生徒14名、引率4名、随伴1名)訪問受け入れ、および交流協定締結 ・12月13日～19日、異文化研修受入れ、参加生徒5名、教員1名</p> <p>【学生の海外派遣計画】 ①台湾国立聯合大学との学生交流・学術交流、ゲーテンスティテュートの主催するドイツ語研修、シンガポールへの短期研修派遣等の実績</p> <p>○台湾国立聯合大学との学生交流等 4月1日～3月31日学生1名受入、4月1日～9月30日学生1名受入、5月29日～31日(GBコンテスト)学生4名派遣、 6月23日～7月18日学生10名受入、8月17日～30日学生5名派遣、11月22日(新校区竣工祝賀会)教員3名派遣、 3月8日～28日学生7名派遣</p> <p>○ゲーテンスティテュートの主催するドイツ語研修 7月20日～26日(アジア国際ドイツ語キャンプ、韓国、濟州島)学生2名派遣、 8月3日～16日(青少年コース、ドイツ、ザンクト・ペーター・オルディング)学生1名派遣、 8月10日～30日(青少年コース、ドイツ、ゲーゲンバッハ)学生2名派遣、 10月2日～16日(国内ドイツ企業訪問)学生13名参加</p> <p>○シンガポール短期研修派遣 7月27日～8月24日(シンガポールNYPインターンシップ)学生4名を派遣</p> <p>【留学生の受入体制の強化計画(留学生用の居室整備またはこれに類するものを含む)】 ①留学生の受入体制の強化については、教材費・外部講師・学外見学等に係る費用の捻出が問題点であることがわかった。</p> <p>【外国人留学生に対する研修計画】 ①東京高専との留学生・チューター合同研修会を実施した。東京高専と合わせて留学生14名、チューター6名、教職員4名が参加した。(6/14-15) ・関東信越地区国立高専外国人留学生交流会に、3年次に編入学した留学生3名と教員1名が参加した。(10/11-12)</p>
---------------------------------------	---	---

<p>【4. 管理運営に関する事項】</p>	<p>【危機管理の対応】 ①コンプライアンスに関するチェックリストを活用して、教職員のコンプライアンスの向上を図る。 ②学生の安全等を確保するため、安否確認システムを利用して、危機管理事案等の連絡を適切に行う。 【校内の監査体制、監事監査・内部監査及び高専相互会計内部監査の指摘・改善等への対応】 ①適正な会計事務処理を行うため、学内内部監査を実施するとともに、高専相互内部監査を受けるなどし、不適正な経理の防止に努める。 【公的研究費ガイドラインに対する取組措置状況について】 ①公的研究費等に関する不正使用防止について、周知徹底を図るとともに、学内監査担当係において、「公的研究費等に関する不正使用の再発防止策」に基づく監査体制を強化する。 【教職員の服務監督・健康管理・コンプライアンス意識の向上に関する取組計画】 ①機構が実施する階層別研修等に教職員を参加させ、コンプライアンスの意識向上を図る。 【職員に対する研修の実施・参加計画(国の地方自治体、国立大学、企業等が実施する研修等の活用を含む。)] ①事務職員及び技術職員の能力向上を図るため、学内の研修を実施する。併せて機構、文部科学省、国立大学法人等が主催する研修会に積極的に職員を参加させる。 【人事交流計画】 ①事務職員について、事務組織の充実及び人事の活性化等を図るため、大学等との人事交流を推進する。 【資産の有効活用方策、IT資産の管理】 ①IT資産管理システムを利用し、ソフトウェアライセンス管理を適性かつ効率的に管理する。</p>	<p>【危機管理の対応】 ①コンプライアンスの意識向上を図るため、教職員を対象としてコンプライアンスに関するチェックリストを活用して、自己点検を実施し、コンプライアンスの向上に努めた。 ②学生の安全等を確保するため、安否確認システムを利用して、台風接近に伴う臨時休業の連絡等を行った。 【校内の監査体制、監事監査・内部監査及び高専相互会計内部監査の指摘・改善等への対応】 ①適正な会計処理を行うため、学内内部監査を行うとともに、機構の監事監査・内部監査、会計検査院会計検査、茨城高専による高専相互監査を受けるなど不適正な経理の防止に努めた。 【公的研究費ガイドラインに対する取組措置状況】 ①公的研究費等に関する不正使用防止として、全教職員対象の講習会を3回実施した。また、取引業者には不正経理に協力しない旨の誓約書の提出依頼を行った。 また、再発防止策としての監査体制として、学内監査の実施、高専間会計内部監査の実施、監事監査・内部監査の実施を行った。 【教職員の服務監督・健康管理・コンプライアンス意識の向上に関する取組計画】 ①機構が実施する係長、主任、中堅職員等の階層別研修に参加させ、コンプライアンスの意識向上を図った。 【職員に対する研修の実施・参加計画(国の地方自治体、国立大学、企業等が実施する研修等の活用を含む。)] ○事務職員や技術職員の能力向上を図る研修会の実施 ・ビジネスマナー勉強会(補佐・係長、係員) ・第34・35回技術職員セミナー ・第6回「高専技術発表会IN木更津」 ○各種研修会への参加 ・機構新任課長研修 ・機構初任職員研修会 ・千葉県養護教諭研修会 ・機構労務管理研修会 ・千葉大学中堅職員研修 ・緊急支援に関する研修会 ・障害学生支援実務研修会 ・機構IT人材教育研修会 ・機構新任係長研修会 ・情報システム研修 ・機構全国国立高等専門学校メンタルヘルス研修集会 ・機構高等専門学校教員研修(管理者研修) ・全国学生相談研修会 ・機構高等専門学校(クラス経営・生活指導研修) ・公文書管理研修Ⅰ ・関東甲信越地区国立大学法人等会計事務研修 ・関東甲信越地区国立大学法人等係長研修 【人事交流計画】 ①事務組織の充実及び人事の活性化等を図るため、千葉大学から3名の交流者を受け入れた。また、平成27年度においては、本校職員の資質向上を図るため、本校から千葉大学へ交流者として転出させることについて、千葉大学と協議した。 【資産の有効活用方策、IT資産の管理】 ①IT資産管理システムを利用し、ソフトウェアライセンス管理を適性に行った。また、情報セキュリティ管理規定に基づき、「要保護情報等の校外への持ち出しに関する手順書」の作成、及びこの手順に必要な、「情報移送の許可申請書」、「届出書」、「秘密保持契約書」が整備された。</p>
-------------------------------	---	--

<p>【5. 業務運営の効率化に関する事項】</p>	<p>【一般管理費の縮減取組計画】</p> <p>①管理業務の合理化を図るとともに、一般管理費については、省エネや不要不急な業務(物品購入・役務)について仕分けを行い、3%、その他は1%の業務の効率化を図る。</p> <p>【随意契約の見直し状況】</p> <p>①電気、ガス、水道、電話、郵便等の公共料金に類する契約を除き、契約基準金額以上については、一般競争契約等による契約方式で実施し、随意契約は行わない。また、企画競争、や公募を行う場合については、競争性と透明性の確保を図る。</p>	<p>【一般管理費の縮減取組計画】</p> <p>①教員研究費及び教育支援経費は1%の経費削減を行い業務の効率化を図った。校長裁量経費は予算削減に伴い配分方針を見直し、教育推進経費をプロジェクト推進経費に変更して効率的な配分を行った。</p> <p>【随意契約の見直し状況】</p> <p>①契約基準金額以上については一般競争契約等による契約方式で実施し、随意契約は行わなかった。また、競争参加要件では地域を限定せず、全資格を対象とて要件の緩和を図ると共に、必要最低限の仕様とするよう検討し、競争性を増すことによる費用削減を行うよう努めた。</p>
<p>【6. その他】</p>		